

## 1860年代から1950年代の写真資料における アイヌ民族の住居の外観的特徴

佐久間 学<sup>1)</sup> 羽 深 久 夫<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 札幌市立大学大学院デザイン研究科修士課程, <sup>2)</sup> 札幌市立大学大学院デザイン研究科

**抄録:** 本研究は、これまで系統的な研究が行われていない1860年代から1950年代におけるアイヌ民族の住居を対象とし、写真資料を用いて、主屋の屋根形状から、寄棟屋根、切妻屋根、変形屋根の3種類に類型化し、さらに、主屋と付属屋の関係から10種類に分類し、軒出の有無、屋根の葺材、壁の葺材、開口部の位置から外観の形状の特徴、および、年代的特徴を明らかにした。

**キーワード:** アイヌ民族, 住居, 外観, 寄棟, 切妻

### A Study on the Exterior on the Houses of Ainu People at the Photographic Documents from 1860's to 1950's

Manabu SAKUMA<sup>1)</sup> and Hisao HABUKA, Dr. Eng.<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Graduate Student, Graduate School of Design, Sapporo City University

<sup>2)</sup> Professor, Graduate School of Design, Sapporo City University

**Abstract:** The purpose of this study is to find out the features on the houses of Ainu people at the photographic documents from 1860's to 1950's. The houses have been studied insufficiently in this period to date.

It is clarified that the houses of Ainu people are classified into 10 types by the features of roofs and plans. Their roof shapes are Hipped roof, Gable roof, and other roof. The distribution of their roof shapes at the north part of Japan, has the chronological features.

**Keywords:** Ainu people, Houses, Exterior, Hipped roof, Gable roof

## I. 緒言

伝統的なアイヌ民族の住居は、アイヌ民族の住居に関する系統的な研究がはじめて行われた1930年代後半にはすでに激減しており、戦後の1960年代には居住している伝統的なアイヌ民族の住居は消滅した。現在、目にする伝統的なアイヌ民族の住居は、観光・研究のため新築復元されたものである。

アイヌ民族の住居に関する系統的な研究は、鷹部屋福平<sup>(1)</sup>が研究した1930年代後半から1940年代に集中し、以後、伝統的なアイヌ民族の住居の消滅と共に行われなくなる。研究当時に現存していた伝統的なアイヌ民族の住居の実測記録を主な研究資料としていることから、現存した住居が築10年ほどとしても、古くて1920年代後半以降のアイヌ民族の住居を対象とした研究である。アイヌ民族の住居が竪穴住居から平地住居へと変化し始め

るのがアイヌ文化成立期(13世紀前後)であり、13世紀前後から1930年代までのアイヌ民族の住居に関する系統的な研究は、行われてこなかった。

この空白の研究期間を対象とした研究が2008年の小林孝二の研究である。アイヌ文化期を対象とする発掘報告書<sup>(2)</sup>と18世紀中期から19世紀後半にアイヌ民族の住居を描いた絵画資料<sup>(3)</sup>を基に、アイヌ文化成立期(13世紀前後)から近世紀末(19世紀後半)までのアイヌ民族の住居の特徴を明らかにし、また、既往研究の成果と研究課題の所在を明確にした。小林孝二の研究により、残る空白の研究期間は、1860年代から既往研究が始まる1930年代までである。この空白の期間を対象とする資料の一つに写真がある。19世紀後半に日本に写真技術が伝わり、それに伴い多くのアイヌ民族の住居写真が撮られた。撮影年代は1860年代から1950年代まで幅広く存在し、アイヌ民族の研究者による写真、出版物、絵葉書な

どに多くのアイヌ民族の住居写真が残されている。しかし、これまで写真に特化したアイヌ民族の住居に関する研究は行われていない。

現在、空白の研究期間である1860年代から1930年代だけではなく、主要な研究が行われた1930年代後半から1950年代までを研究対象とする必要がある。鷹部屋らがアイヌ民族の住居を研究した時代は、北海道旧土人保護法に象徴される日本社会への同化政策によってアイヌ民族の住居も変化するのだが、アイヌ民族の住居の実測の対象となる住居は、そうした変化を受けていない住居を対象としていた。既往研究の多くが、アイヌ民族の住居の現状ではなく、アイヌ民族の住居の起源に関わる論考が多いことから日本社会からの影響を受けていない住居に価値を置いていることが窺える(表1)。しかし、同化政策の影響を受け、変化した部分、変化しない部分を検討することは、アイヌ民族の住居の本質を考える上で重要である。

以上のことから、本研究は、1860年代から1950年代に撮られた写真を研究資料とし、1860年代から1950年代までのアイヌ民族の住居の外観の特徴を明らかにする。

## II. 研究方法

### 1. 資料について

写真資料は、アイヌ民族研究者によって撮られた「原写真資料」、アイヌ民族を紹介する出版用としてまとめた「印刷アルバム資料」、旅行記・アイヌ関連本等の本の中に挿入されている「挿入写真資料」、絵葉書に用いられた「絵葉書資料」の4種類に大きく分けられる。写真資料の評価として、小林孝二は「付属する情報が少なく、異文

化への興味から演出の可能性のある写真がある<sup>(4)</sup>」とし、厳密な資料評価が必要であると記している。しかし、現存する住居がない現在において、1860年代から1950年代までのアイヌ民族の住居を記す資料として、写真資料は重要な資料である。資料の特性として、絵画資料と同じ性質があり、言葉による説明は少ないが、アイヌ民族の住居を写し出す表現力に関しては、絵画資料に劣らないものである。本研究は写真資料の厳密な評価を行い、写真資料を扱う。

### 2. 写真資料の所蔵先

アイヌ民族の住居を写す写真資料は、国内では北海道大学、東京大学、長崎大学等の大学機関、アイヌ民族関係の研究機関に所蔵してある。海外においては、ロシア民族学博物館、オーストリア国立ウィーン民族学博物館に所蔵してあることが確認できる。写真資料は、それ自体では撮影年代、撮影場所等を特定することが難しく、そのような写真を研究資料とすることは、研究の信頼性を低くする。そこで、本研究の研究資料の第一の評価は、資料の所蔵先において、研究者による分析が行われ、撮影年代、撮影地を明らかにした資料である事とする。この評価から、北海道大学付属図書館北方資料室、北海道立アイヌ民族文化研究センター、ロシア民族学博物館の三つの研究機関が該当する。次に、三つの研究機関が所蔵する資料を収集し、更なる評価を行う。

#### 1) 北海道大学付属図書館北方資料室

北海道大学付属図書館北方資料室は、長年、アイヌを含む北方系の民族の研究が行われ、専門的な整理がされ、撮影場所・撮影年代等の付加情報があるなど、資料的価値が高い。アイヌ民族の住居を写す全写真を収集した結

表1 主要な既往研究の整理

研究対象年代	研究者	発表年	主な研究資料
起源・変遷	石原憲治	1925	東北地方の農民住宅
起源・変遷	関野克	1938	鐵山秘書(天明4年)
起源・変遷	棚橋諒	1938~39	現地調査
起源・変遷	鷹部屋福平	1939~43	現地調査
起源・変遷	村田治郎	1950	鷹部屋氏の研究
起源・変遷	知里真志保	1950	言語学(アイヌ語)
起源・変遷	太田博太郎	1951	鐵山秘書(天明4年) 鷹部屋氏の研究
起源・変遷	三田克彦	1953	小屋組の部材名称
起源・変遷	小倉強	1955	三脚叉首構造
起源・変遷	大林太良	1956	文化人類学
起源・変遷	杉本尚次	1969	地理学

研究対象年代	研究者	発表年	主な研究資料
起源・変遷	越野武	1984	既往研究
起源・変遷	乾尚彦	1989	鷹部屋氏の研究
起源・変遷	宮澤智史	1989	既往研究
13世紀前後~18世紀中期	小林孝二	2008	発掘報告書
18世紀中期~19世紀後半			絵画資料
17~19世紀	遠藤明久	1992	江戸期以降の文献
1920年代	村上二郎	1925	現地調査
1930年代	棚橋諒	1938~39	現地調査
1930年代	竹内芳太郎	1939	改良住宅
1930年代~1940年代	鷹部屋福平	1939~43	現地調査
1940年代	杉野謙三	1940	現地調査
1940年代	金田一京助	1942	移築した住居

※ 起源・変遷=アイヌ民族の住居の起源はどの地域に由来するものか、また、どこに影響を与えているかという論

果、写真数が400枚近くあり、撮影年代を見ても1860年代から1940年代の写真が揃っていた。写真資料の抽出において、「原写真資料」は、性質として年代の古いものが多い、詳しい撮影場所が不明なものが多いが、商業用に写真が撮られたものではなく、北海道帝国大学（現北海道大学）の研究者・関係者等によって撮られたものである。撮影年代がわかり、撮影場所は北海道であることまで確認でき、アイヌ民族の住居と記載のある写真を本研究の写真資料とする。「印刷アルバム資料」は、北海道の紹介の類の商業的なものが多いが、年代の古いものも存在し重要な資料である。撮影年代・撮影場所の特定できる写真を本研究の写真資料とする。「挿入写真資料」は、写真の引用先がわかり、撮影年代・撮影場所の特定できる写真を本研究の写真資料とする。「絵葉書資料」は商業的なものであり、厳密な評価が必要だが、撮影年代・撮影場所がわかるものを前提とし、北海道大学付属図書館北方資料室の目録または絵葉書資料に解説文が付加され、写真の経緯が明らかなものを本研究の写真資料とする。

## 2) 北海道立アイヌ民族文化研究センター

北海道立アイヌ民族文化研究センターは、アイヌ語地名研究の第一人者として知られる山田秀三、アイヌ口承文芸研究の第一人者として知られる久保寺逸彦、両氏が研究に用いた図書・調査資料を所蔵している。現在、専門的な整理が行われた資料は、久保寺逸彦が研究に用いた写真である。主に1930年代から1960年代までの北海道、サハリン（樺太）での調査において撮影されたものである。この資料のうち、北海道のアイヌ民族の住居を写した写真を本研究の研究資料とする。

## 3) ロシア民族学博物館

ロシア民族学博物館は、2600点を数えるアイヌ文化のコレクションを所蔵する。1997年から1999年にロシア民族学博物館研究員、千葉大学および北海道立アイヌ民族文化センターの各専門家により、「ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料」調査プロジェクトが実施され、書籍「ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料目録<sup>6)</sup>」に成果をまとめた。この書籍に収録されている北海道のアイヌ民族の住居を写した写真を本研究の研究資料とする。

## 3. 本研究の研究資料（表2）

本研究で収集した写真帖は35種類であり、写真枚数は434枚である。そのうち本研究の研究資料は、北海道大学付属図書館北方資料室が所蔵する写真322枚、北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵する写真21枚、ロシア民族学博物館が所蔵する写真6枚の計349枚である。撮影年代は1860年代から1950年代である。この349枚

の写真を本研究の研究資料とする。

## 4. 写真資料の内容と分析対象の抽出（表3）

写真資料の撮影内容について、住居外観写真、住居内部写真、風景写真、住居骨組写真、平面図写真の四つに分けられる。

写真資料の整理は、同一の住居を写す写真資料は一つに整理し、一つの分析対象を抽出する。一枚の写真の中に複数の住居が写る写真資料は、住居別に整理し、複数の分析対象を抽出する。

写真帖「毛民青屋集<sup>6)</sup> 5, 6」, 「毛民青屋集 7, 8」に関して、「毛民青屋集 5, 6」から二風谷村の住居43棟、「毛民青屋集 7, 8」から白老村の住居26棟が確認できる。同一の外観の住居をまとめ、43棟の二風谷村の住居を9種類、26棟の白老村の住居を9種類に整理した。この18種類を分析対象とする。結果、総分析対象数は89件である。

## 5. 分析方法

写真資料の整理により導いた総分析対象数89件に対し、住居の外観、住居骨組、平面図を写す分析対象について、主に外観からわかる10項目の指標を設定し、分析を行い、外観の特徴を明らかにする。その他、風景、住居内部を写す分析対象については、写真資料からわかることを表記する。

10項目の指標は以下の通りであり、図1のように抽出を行う。

### ①主屋の屋根形状

屋根の形状を、寄棟屋根、切妻屋根、変形屋根<sup>7)</sup>に分類し表記する。

### ②付属屋の有無

付属屋<sup>8)</sup>の有無を表記する。

### ③付属屋の位置

付属屋を伴う住居について、主屋のどの位置に付属屋があるかを表記する。

### ④付属屋の屋根形状

付属屋を伴う住居について、付属屋の屋根形状を寄棟屋根、切妻屋根、片流れ屋根、半筒形屋根に分類し表記する。

### ⑤付属屋の入口

付属屋を伴う住居について、付属屋と主屋を一つの平面形としてみたときの付属屋の入口が、平入か妻入かを表記する。

### ⑥主屋の入口

主屋の入口が、平入か妻入かを表記する。

表2 写真資料

## 北海道大学付属図書館北方資料室

資料区分	写真帖名	写真帖番号	撮影年/出版年		写真枚数	研究資料枚数
			西暦	元号		
原写真	アイヌ関係写真アルバム	A-01	1868-	明治初年	11枚	11枚
原写真	北海道写真	A-02	1877	明治10年頃	1枚	0枚
原写真	明治初年アイヌ風俗写真	A-03	1877-1886	明治10年代	4枚	4枚
原写真	明治10年代単体写真	A-04	1877-1886	明治10年代	3枚	3枚
原写真	明治17年単体写真	A-05	1884	明治17年	1枚	1枚
原写真	明治20年代単体写真	A-06	1887-1896	明治20年代	2枚	2枚
原写真	明治28年単体写真	A-07	1895	明治28年	1枚	1枚
印刷アルバム	The Ainu of Japan	A-08	1895	明治28年	12枚	0枚
原写真	明治30年代単体写真	A-09	1897-1906	明治30年代	2枚	1枚
印刷アルバム	北海道みやげ蝦夷百風景	A-10	1905	明治38年	7枚	1枚
印刷アルバム	皇太子殿下行啓記念十勝国産業写真帖	A-11	1911	明治44年	1枚	1枚
印刷アルバム	東宮殿下行啓記念(下)	A-12	1911	明治44年	2枚	2枚
原写真	明治末年単体資料	A-13	-1912	明治末年	4枚	1枚
原写真	大正初年単体写真	A-14	1912-	大正初年	1枚	1枚
印刷アルバム	北海道写真帖(仮称)	A-15	1914	大正3年	2枚	2枚
印刷アルバム	開道五十年記念北海道博覧会記念日高写真帖	A-16	1918	大正7年	3枚	1枚
印刷アルバム	北海道大観	A-17	1920	大正9年	1枚	1枚
印刷アルバム	皇太子殿下行啓記念写真帖	A-18	1922	大正11年	2枚	1枚
印刷アルバム	宗谷線全通記念写真帖	A-19	1924	大正13年	2枚	1枚
印刷アルバム	北海全道アルバム(HOKKAIDO ALBUM)	A-20	1926-	昭和初年	2枚	1枚
絵葉書	昭和初年単体絵葉書	A-21	1926-	昭和初年	1枚	1枚
印刷アルバム	胆振大観	A-22	1930	昭和5年	2枚	2枚
挿入写真	「原始林」(直筆本)	A-23	1937	昭和12年	3枚	3枚
印刷アルバム	躍進北海道の景観	A-24	1938	昭和13年	2枚	0枚
絵葉書	旭川アイヌ風俗絵葉書	A-25	1926-	昭和初期	4枚	0枚
絵葉書	北海道アイヌ風俗	A-26	1926-	昭和初期	5枚	0枚
絵葉書	北海道土人アイヌ風俗	A-27	1926-	昭和初期	3枚	0枚
絵葉書	アイヌ風俗	A-28	1926-	昭和初期	5枚	0枚
絵葉書	北海道アイヌ風俗の彩	A-29	1926-	昭和初期	5枚	0枚
絵葉書	アイヌ風俗絵はがき	A-30	1926-	昭和初期	20枚	0枚
絵葉書	北海道平取土人風俗	A-31	1926-	昭和初期	8枚	6枚
原写真	毛民青屋集5,6(二風谷村写真帖第1,2)	A-32	1940	昭和15年	138枚	138枚
原写真	毛民青屋集7,8(白老村写真帖第1,2)	A-33	1940	昭和15年	136枚	136枚

## 北海道立アイヌ民族文化センター

資料区分	写真帖名	写真帖番号	撮影年/出版年		写真枚数	研究資料枚数
			西暦	元号		
原写真	久保寺逸彦文庫	A-34	1934	昭和9年	10枚	7枚
			1935	昭和10年	9枚	5枚
			1936	昭和11年	7枚	6枚
			1953	昭和28年	2枚	2枚
			1954	昭和29年	2枚	1枚

## ロシア民族学博物館

資料区分	写真帖名	写真帖番号	撮影年/出版年		写真枚数	研究資料枚数
			西暦	元号		
原写真	ロシア民族学博物館アイヌ資料目録	A-35	1877-1886	明治10年代	8枚	6枚

表3 写真資料の内容

写真帖番号	撮影年/出版年		資料番号	写真資料名	写真内容	分析番号
	西暦	元号				
A-01	1868-	明治初年	P-01	石狩国石狩郡石狩川字シビウス鮭漁業之景	外観	FH-01
			P-02	アイヌ子供	外観	FH-02
			P-03	アイヌの家屋とヌシャサン(祭壇)	外観	FH-03
			P-04	アイヌ家屋傍のヌシャサン	外観	FH-04
			P-05	家屋の前に並んだアイヌと子供たち	外観	FH-05
			P-06	アイヌの倉庫(ブー)	外観	FH-06
			P-07	家屋倉庫及びヌシャサン/八雲アイヌ家屋	外観	FH-07
			P-08	チセの枠組み	住居骨組	FH-08
			P-09	チセの屋根裏	内部	FH-09
			P-10	Order of Mourners in Home of The Dead	平面図	FH-10
			P-11	アイヌ住居及び熊檻	外観	FH-11
A-03	1877-1886	明治10年代	P-12	アイヌ女子	外観	FH-12
			P-13	アイヌ婦人	外観	FH-13
			P-14	アイヌ住居と倉庫	外観	FH-14
A-04	1877-1886	明治10年代	P-15	住居の前に立つアイヌ男女	外観	FH-15
			P-16※1	アイヌ人物写真	外観	FH-16
			P-17※1	アイヌ住居脇のヌシャサン(祭壇)		
			P-18※1	アイヌ・コタンの人々		
			P-19※1	アイヌコタン全景		
			P-20※1	アイヌコタンの風景		
			P-21※1	クマの祭壇、その前に民族衣装のアイヌの人々が座っている		
			P-22※1	クマの祭壇		
			P-23※2	茅で覆われた骨組構造の住居を背景に民族衣装を纏ったアイヌ人たち	外観	FH-18
			P-24※2	茅で覆われた骨組構造の住居を背景にした民族衣装のアイヌの女性		
			A-05	1884	明治17年	P-25
A-06	1887-1896	明治20年代	P-26※3	アイヌ・コタンの人々1	外観	FH-20
			P-27※3	アイヌ・コタンの人々2		
A-07	1895	明治28年	P-28	釧路国阿寒郡セツリ川上流宇ピラカアイヌ部落之景	外観	FH-21
A-09	1897-1906	明治30年代	P-29	網走郡美幌村アイヌ村落之景	外観	FH-22
A-10	1905	明治38年	P-30	日高国沙流太村落	外観	FH-23
A-11	1911	明治44年	P-31	河内郡伏古村旧土人の状況	外観	FH-24
			P-32	「アイヌ」盛装(日高地方旧土人)	外観	FH-25
A-12	1911	明治44年	P-33	「アイヌ」家屋と倉庫	外観	FH-26
A-13	-1912	明治末年	P-34	アイヌ村落(写真左)	外観	FH-27
A-14	1912-	大正初年	P-35	胆振国白老アイヌ家屋	外観	FH-28
A-15	1914	大正3年	P-36	十勝国伏古別アイヌ部落	外観	FH-29
			P-37	平取村善経神社及びアイヌ家屋(写真左)	外観	FH-30
A-16	1918	大正7年	P-38	平取市街	風景	FH-31
A-17	1920	大正9年	P-39	日高平取土人部落	風景	FH-32
A-18	1922	大正11年	P-40	アイヌ一族住居ヲ出テ盛装シテ通御ヲ拝ス	外観	FH-33
A-19	1924	大正13年	P-41	近文旧土人部落	外観	FH-34
A-20	1926-	昭和初年	P-42※4	アイヌの部落(写真左)	外観	FH-35
			P-43	アイヌの部落(写真右)	外観	FH-36
A-21	1926-	昭和初年	P-44	釧路市春採アイヌ住居	外観	FH-37
A-22	1930	昭和5年	P-45	アイヌ風俗(神祭り)	外観	FH-38
			P-46	白老アイヌ部落	風景	FH-39
A-34	1934	昭和9年	P-47	道の両側のチセ、右手に豆畑がある	外観	FH-40
			P-48	チセが点在する集落への道	外観	FH-41
			P-49	チセ、戸口と母屋の繋ぎ部分が下がる	外観	FH-42
			P-50	神楽棚から見た家屋。左端に熊檻がある	外観	FH-43
			P-51	神楽棚の高台から見た二風谷	外観	FH-44
			P-52	杵搦きをする女性三人	外観	FH-45
			P-53	実田村から豊沙別方向を見る	外観	FH-46
			P-54	笹草の家の前に立つ二谷国松氏	外観	FH-47
			P-55	鹿田シムカニ氏	外観	FH-48
	1935	昭和10年	P-56	鹿田シムカニ氏	外観	FH-49
			P-57	笹草の家と板壁の家、板壁の家は官給住宅か	外観	FH-50
			P-58	川北から見た平取町本町	風景	FH-51
			P-59	イオマンテ：薪の間でイウタする女性	外観	FH-52
			P-60	イオマンテ：水汲み場に集まった人たち1	外観	FH-53
			P-61	イオマンテ：水汲み場に集まった人たち2	外観	FH-54
	1936	昭和11年	P-62	イオマンテ：ヌサの前での踊り	外観	FH-55
			P-63	イオマンテ：祭りに酒を注ぐ	外観	FH-56
			P-64	アイヌの輪舞	内部	FH-57
			P-65	熊送り風景	外観	FH-58
A-23	1937	昭和12年	P-66	エカシの死	内部	FH-59
			P-67	北海道平取町の景	内部	FH-60
			P-68※5	アイヌのメノコの乗馬(写真左)	風景	FH-61
A-31	1926-	昭和初期	P-69	アイヌのメノコの乗馬(写真右)	外観	FH-62
			P-70	アイヌの米つき	外観	FH-63
			P-71	アイヌの酒宴の図	外観	FH-64
			P-72	アイヌの家屋	外観	FH-65
			P-73※6	アイヌの家庭	外観	FH-66
			P-74※6	アイヌのアツシ織と縫取の状況	外観	FH-67
			P-75※6	二風谷1	外観	FH-68
A-32	1940	昭和15年	P-76※6	二風谷2	外観	FH-69
			P-77※6	二風谷3	外観	FH-70
			P-78※6	二風谷4	外観	FH-71
			P-79※6	二風谷5	外観	FH-72
			P-80※6	二風谷6	外観	FH-73
			P-81※6	二風谷7	外観	FH-74
			P-82※6	二風谷8	外観	FH-75
			P-83※6	二風谷9	外観	FH-76
			P-84※6	白老1	外観	FH-77
A-33	1940	昭和15年	P-85※6	白老2	外観	FH-78
			P-86※6	白老3	外観	FH-79
			P-87※6	白老4	外観	FH-80
			P-88※6	白老5	外観	FH-81
			P-89※6	白老6	外観	FH-82
			P-90※6	白老7	外観	FH-83
			P-91	白老8	外観	FH-84
			P-92※7	白老9	外観	FH-85
			P-93	煙突がある茅葺きのチセ	外観	FH-86
A-34	1953	昭和28年	P-92※7	茅葺きのチセ(右)	外観	FH-87
			P-92※7	茅葺きのチセ(左)	外観	FH-88
	1954	昭和29年	P-93	チセ T219-010の方向違い	外観	FH-89

※ 1,2,3 P-17 から P-22 は同一の住居を撮影したものであり一つの分析対象 FH-17 にまとめる。同様に、P-23 と P-24 は FH-18 に、P-26 と P-27 は FH-20 にまとめる。

※ 4,5,7 P-42, P-68, P-92 は一枚の写真の中に2つの住居が写るので、それぞれ2つの住居を分析対象とする。

※ 6 P-73 から P-90 について、写真資料枚数が多いため、写真資料名の住居を写す写真資料一枚を掲載する。分析に際しては、全写真資料を用いている。



- ①主屋の屋根形状は寄棟屋根
- ②付属屋は有
- ③付属屋の位置は主屋の妻側
- ④付属屋の屋根形状は寄棟屋根
- ⑤付属屋の入口は平入
- ⑥主屋の入口は妻入
- ⑦軒出は有
- ⑧屋根の葺材は茅
- ⑨壁の葺材は茅
- ⑩開口部の位置は壁

図1 分析番号 FH-84 を用いた分析方法例

写真帖番号 A-33「毛民青屋集 7, 8」/資料番号 P-89「白老 8」/北海道大学附属図書館北方資料室所蔵

#### ⑦軒出の有無

軒出の有無を表記する。軒出無とは、屋根と壁の区別がつかないものである。

#### ⑧屋根の葺材

屋根の葺材を茅葺・柁葺・茅以外の草葺（主に笹葺）の三種類に分類し表記する。

#### ⑨壁の葺材

壁の葺材を茅葺・柁葺・茅以外の草葺（主に笹葺）の三種類に分類し表記する。

#### ⑩開口部の位置

開口部（窓・煙出し）の位置が壁にあるか、屋根にあるかを表記する。

### III. 結果

#### 10 項目の指標による分析結果（表 4）

分析対象 89 件の 10 項目の指標による分析結果は以下の通りである。

#### ①主屋の屋根形状

分析対象数は合計 70 件である。内訳は、寄棟屋根が 63 件、切妻屋根が 6 件、変形屋根が 1 件である。

#### ②付属屋の有無

分析対象数は合計 45 件である。内訳は、付属屋の有るものが 25 件、付属屋の無いものが 20 件である。

#### ③付属屋の位置

分析対象数は合計 23 件である。内訳は、平側が 5 件、妻側が 16 件、平妻両側が 2 件である。

#### ④付属屋の屋根形状

分析対象数は合計 22 件である。内訳は、寄棟屋根が 6

件、切妻屋根が 4 件、片流れ屋根が 11 件、半筒形屋根が 1 件である。

#### ⑤付属屋の入口

分析対象数は合計 22 件である。内訳は、平入が 18 件、妻入が 4 件である。

#### ⑥主屋の入口

分析対象数は合計 42 件である。内訳は、平入が 19 件、妻入が 23 件である。

#### ⑦軒出の有無

分析対象数は合計 75 件である。内訳は、軒出の有るものが 74 件、軒出の無いものが 1 件である。

#### ⑧屋根の葺材

分析対象数は合計 76 件である。内訳は、茅葺が 73 件、笹葺が 3 件である。

#### ⑨壁の葺材

分析対象数は合計 77 件である。内訳は、茅壁が 65 件、柁壁が 19 件、笹壁が 3 件、茅と柁の壁 1 件、茅と笹の壁 1 件である。

#### ⑩開口部の位置

分析対象数は合計 50 件である。内訳は、壁に有るものが 45 件、屋根に有るものが 3 件、壁と屋根両方に有るものが 1 件、開口部の無いものが 1 件である。

以上の分析結果を基に考察を行い、外観の特徴を明らかにする。

IV. 考察

1. 表4の分析結果を基にした住居の類型化

表4から主屋・屋根形状を確認できる分析対象数は合計70件ある。内訳は、寄棟屋根が63件、切妻屋根が6件、変形屋根が1件であり、件数では圧倒的に寄棟屋根が多く、1860年代から1950年代におけるアイヌ民族の住居の屋根形状は、寄棟屋根が中心であったと言える。切妻屋根と変形屋根の件数は少ないが、この2種類の屋根形状もアイヌ民族の住居として考えられる。よって、外観の特徴から、寄棟屋根、切妻屋根、変形屋根の3種類にアイヌ民族の住居を類型化する。主屋の屋根形状が異なると、同じアイヌ民族の住居でも外観が異なる事と同時に、各々異なる屋根構造であると考えられるからである。次に付属屋の有無、付属屋の位置、付属屋の屋根形状、付属屋の入口、主屋の入口の分析結果を用い、主屋と付属屋の関係を明らかにする。最後に軒出の有無、屋根の葺材、壁の葺材、開口部の位置を明らかにする。

以上、表4を用い外観の特徴を基に、寄棟屋根、切妻屋根、変形屋根の3種類にアイヌ民族の住居を類型化し、さらに主屋と付属屋の関係から、寄棟屋根を7種類、切妻屋根を2種類、変形屋根を1種類の計10種類に分類し

た。

次に、寄棟屋根、切妻屋根、変形屋根ごとにその特徴を整理する。

2. 寄棟屋根のアイヌ民族の住居 (表5, 表6)

1) 寄棟屋根について

寄棟屋根のアイヌ民族の住居は、既往研究、本研究の写真資料において最も多く存在し、アイヌ民族の住居の典型である。

屋根構造を確認できる分析対象が分析番号 FH-08 (資料番号 P-08「チセの枠組み」) の1件あり、この構造は、平叉首を3組以上建て両妻の平叉首に隅木を掛ける構造である。

2) 主屋と付属屋の関係

類型① 付属屋を伴わず、主屋は矩形で平入

(表4分析番号 FH-11, 28, 40, 55, 63, 68, 69, 70, 77, 78)

類型② 付属屋を伴わず、主屋は矩形で妻入

(表4分析番号 FH-17, 24, 30, 71, 79)

類型③ 矩形の主屋の平側に付属屋を伴い、付属屋を平側から入る平入

(表4分析番号 FH-20, 72, 81, 82)

表4 アイヌ民族の住居の分析

撮影年/出版年		資料番号	写真内容	撮影場所	分析番号	主屋 屋根形状	付属屋 有無	付属屋 位置	付属屋 屋根形状	付属屋 入口	主屋 入口	軒出 有無	屋根 葺材	壁 葺材	開口部 位置		
西暦	元号																
1868-	明治初年	P-01	外観	石狩	FH-01	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
		P-02	外観	北海道	FH-02	-	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁		
		P-03	外観	北海道	FH-03	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁		
		P-04	外観	北海道	FH-04	切妻	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
		P-05	外観	北海道	FH-05	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
		P-06	外観	北海道	FH-06	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁		
		P-07	外観	八雲	FH-07	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
		P-08	住居骨組	北海道	FH-08	寄棟	有	妻側	切妻	平入	妻入	-	-	-	-		
		P-09	内部	北海道	FH-09	住居内部の小屋組を写すが、構造を特定できない。											
		P-10	平面図	北海道	FH-10	-	有	妻側	-	平入	妻入	-	-	-	-	壁	
1877-1886	明治10年代	P-11	外観	白老	FH-11	寄棟	無	妻側	-	平入	妻入	有	茅	茅	壁		
		P-12	外観	北海道	FH-12	-	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁		
		P-13	外観	北海道	FH-13	-	-	-	-	-	-	-	-	茅	-		
		P-14	外観	静内	FH-14	寄棟	有	妻側	片流れ	平入	妻入	有	茅	茅	壁		
		P-15	外観	北海道	FH-15	-	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁		
		P-16	外観	北海道	FH-16	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
		P-17~22	外観	北海道	FH-17	寄棟	無	妻側	-	妻入	妻入	有	茅	茅	壁		
1883	明治16年	p-23,24	外観	北海道	FH-18	寄棟	有	妻側	寄棟	-	妻入	有	茅	茅	壁		
1884	明治17年	P-25	外観	標津	FH-19	変形	有	妻側	半筒形	妻入	妻入	有	茅	茅	屋根		
1887-1896	明治20年代	p-26,27	外観	北海道	FH-20	寄棟	有	平側	片流れ	平入	平入	有	茅	茅	壁		
1895	明治28年	P-28	外観	釧路	FH-21	切妻	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
1897-1906	明治30年代	P-29	外観	網走	FH-22	寄棟	有	妻側	切妻	平入	妻入	有	茅	茅	屋根		
1905	明治38年	P-30	外観	日高	FH-23	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
1911	明治44年	P-31	外観	伏古	FH-24	寄棟	無	妻側	-	妻入	妻入	有	茅	茅	-		
		P-32	外観	静内	FH-25	-	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
		P-33	外観	静内	FH-26	寄棟	有	妻側	片流れ	平入	妻入	有	茅	茅	壁		
-1912	明治末年	P-34	外観	北海道	FH-27	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-		
1912-	大正初年	P-35	外観	白老	FH-28	寄棟	無	妻側	-	平入	妻入	有	茅	茅	-		
1914	大正3年	P-36	外観	十勝	FH-29	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁		
		P-37	外観	平取	FH-30	寄棟	無	妻側	-	妻入	妻入	有	茅	茅	-		
1918	大正7年	P-38	風景	平取	FH-31	川のそばに住居が建ち並び、母屋の長辺(平側)は、川・道側を向いている。											
1920	大正9年	P-39	風景	平取	FH-32	茅葺のアイヌ民族の住居と切妻屋根の木造住居が建ち並び。											

撮影年/出版年		資料番号	写真内容	撮影場所	分析番号	主屋 屋根形状	付属屋 有無	付属屋 位置	付属屋 屋根形状	付属屋 入口	主屋 入口	軒出 有無	屋根 葺材	壁 葺材	開口部 位置	
西暦	元号															
1922	大正11年	P-40	外観	支笏湖	FH-33	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-	
1924	大正13年	P-41	外観	近文	FH-34	寄棟	-	-	-	-	-	有	笹	笹	壁	
1926-	昭和初年	P-42	外観	白老	FH-35	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁	
			外観	白老	FH-36	寄棟	-	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-
		P-43	外観	釧路	FH-37	寄棟	有	妻側	切妻	妻入	妻入	有	茅	茅	屋根	
1930	昭和5年	P-44	外観	白老	FH-38	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-	
		P-45	風景	白老	FH-39	十字路ができており、十字路に沿って住居が建ち並ぶ。										
1934	昭和9年	P-46	外観	平取	FH-40	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	葎	-	
		P-47	外観	平取	FH-41	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	葎	-	
		P-48	外観	平取	FH-42	寄棟	有	妻側	寄棟	平入	妻入	有	茅	茅	壁	
		P-49	外観	平取	FH-43	寄棟	有	妻側	寄棟	平入	妻入	有	茅	茅	壁	
		P-50	外観	平取	FH-44	寄棟	-	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁
		P-51	風景	平取	FH-45	寄棟のアイヌ住居と切妻屋根の住居が建ち並ぶ										
1935	昭和10年	P-53	外観	浜益	FH-47	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	葎	壁	
		P-54	外観	旭川	FH-48	寄棟	有	妻側	寄棟	平入	妻入	有	笹	笹と茅	壁/屋根	
		P-55	外観	旭川	FH-49	-	無	-	-	-	平入	有	茅	茅	-	
		P-56	外観	旭川	FH-50	-	-	-	-	-	-	-	-	葎	葎	-
		P-57	外観	近文	FH-51	寄棟	-	-	-	-	-	-	有	笹	笹	-
1936	昭和11年	P-58	風景	平取	FH-52	川のそば/道に沿って両端にアイヌ住居が並ぶ。										
		P-59	外観	平取	FH-53	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	葎	-	
		P-60	外観	平取	FH-54	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	葎	壁	
		P-61	外観	平取	FH-55	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	葎	壁	
		P-62	外観	平取	FH-56	寄棟	有	妻側	片流れ	平入	妻入	有	茅	葎	壁	
		P-63	内部	平取	FH-57	障子あり/室内に梁あり										
1937	昭和12年	P-64	外観	白老	FH-58	寄棟	有	妻側	寄棟	平入	妻入	有	茅	茅	壁	
		P-65	外観	白老	FH-59	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁	
		P-66	内部	白老	FH-60	室内の壁が織物で覆われている。										
1926-	昭和初期	P-67	風景	平取	FH-61	道に沿って、茅葺きの住居機立ち並んでいる。										
		P-68	外観	平取	FH-62	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	葎	壁	
			外観	平取	FH-63	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	葎	壁	
		P-69	外観	平取	FH-64	寄棟	有	-	-	-	-	有	茅	茅	-	
		P-70	外観	平取	FH-65	-	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁	
		P-71	外観	平取	FH-66	寄棟	有	-	-	-	-	有	茅	茅	-	
		P-72	外観	平取	FH-67	-	無	-	-	-	-	-	有	茅	葎	壁
1940	昭和15年	P-73※	外観	二風谷	FH-68	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	茅	壁	
		P-74※	外観	二風谷	FH-69	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	葎	壁	
		P-75※	外観	二風谷	FH-70	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	茅と葎	壁	
		P-76※	外観	二風谷	FH-71	寄棟	無	-	-	-	妻入	有	茅	葎	壁	
		P-77※	外観	二風谷	FH-72	寄棟	有	平側	片流れ	平入	平入	有	茅	葎	壁	
		P-78※	外観	二風谷	FH-73	寄棟	有	平妻両側	片流れ	平入	平入	有	茅	葎	壁	
		P-79※	外観	二風谷	FH-74	寄棟	有	平妻両側	片流れ	妻側	妻側	有	茅	葎	壁	
		P-80※	外観	二風谷	FH-75	切妻	無	-	-	-	平入	有	茅	葎	-	
		P-81※	外観	二風谷	FH-76	切妻	無	-	-	-	妻入	有	茅	茅	無し	
		P-82※	外観	白老	FH-77	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	茅	壁	
		P-83※	外観	白老	FH-78	寄棟	無	-	-	-	平入	有	茅	葎	壁	
		P-84※	外観	白老	FH-79	寄棟	無	-	-	-	妻入	有	茅	茅	壁	
		P-85※	外観	白老	FH-80	寄棟	有	平側	片流れ	平入	平入	有	茅	茅	壁	
		P-86※	外観	白老	FH-81	寄棟	有	平側	片流れ	平入	平入	有	茅	葎	壁	
P-87※	外観	白老	FH-82	寄棟	有	平側	切妻	平入	平入	有	茅	葎	壁			
P-88※	外観	白老	FH-83	寄棟	有	妻側	片流れ	平入	妻入	有	茅	茅	壁			
P-89※	外観	白老	FH-84	寄棟	有	妻側	寄棟	平入	妻入	有	茅	茅	壁			
P-90※	外観	白老	FH-85	切妻	無	-	-	-	平入	有	茅	茅	-			
1953	昭和28年	P-91	外観	厚真	FH-86	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁	
		P-92	外観	穂別	FH-87	寄棟	-	-	-	-	-	有	茅	茅	壁	
			外観	穂別	FH-88	切妻	-	-	-	-	-	有	茅	茅	-	
1954	昭和29年	P-93	外観	標茶	FH-89	寄棟	有	妻側	片流れ	妻入	妻入	有	茅	茅	-	

※ P-73 から P-90 について、写真資料枚数が多いため、写真資料名の住居を写す写真資料一枚を掲載する。分析に際しては、全写真資料を用いている。

表4で用いる記号『-』は、資料が指標を写さないため分析が行えなかったことを記す。

主屋の屋根形状：寄棟＝寄棟屋根、切妻＝切妻屋根、変形＝屋根が変形し、稜線が不明瞭な屋根。

付属屋の屋根形状：寄棟＝寄棟屋根、切妻＝切妻屋根、片流れ＝片流れ屋根、半筒形＝半円筒形の屋根

付属屋の入口：付属屋を伴う住居について、付属屋と主屋を一つの平面形としてみたときの入口が、平入か妻入であるかを記す。

主屋の入口：主屋の入口が、平入か妻入であるかを記す。

付属屋の屋根形状について、分析番号 FH-82 は切妻屋根、分析番号 FH-20, 72, 81 は片流れ屋根である。

**類型④ 矩形の主屋の妻側に付属屋を伴い、付属屋を妻側から入る妻入**

(表4 分析番号 FH-37, 89)

付属屋の屋根形状について、分析番号 FH-37 は切妻屋根、分析番号 FH-89 は片流れ屋根である。

**類型⑤ 矩形の主屋の妻側に付属屋を伴い、付属屋を平側から入る妻入**

(表4 分析番号 FH-08, 14, 22, 26, 42, 43, 48, 56, 58, 83)

付属屋の屋根形状について、分析番号 FH-42, 43, 48, 58 は寄棟屋根、分析番号 FH-08, 22, 56, 83 は片流れ屋根、分析番号 FH-14, 26 は切妻屋根である。

**類型⑥ 矩形の主屋の平妻両側にL字の付属屋を伴い、付属屋を平側から入る平入**

(表4 分析番号 FH-73)

付属屋の屋根形状について、分析番号 FH-73 は片流れ屋根である。

**類型⑦ 矩形の主屋の平妻両側にL字の付属屋を伴い、付属屋を妻側から入る妻入**

(表4 分析番号 FH-74)

付属屋の屋根形状について、分析番号 FH-74 は片流れ屋根である。

### 3) その他

- ・軒出はある。
- ・屋根葺材は茅が大半であるが、分析番号 FH-34, 48, 51 のように旭川、近文においては笹葺である。
- ・壁は茅壁が中心であるが、屋根葺材同様、分析番号 FH-34, 48, 50, 51 のように旭川、近文においては笹壁である。昭和に入ると、桎壁が現れ、徐々に桎壁の割合が増える。
- ・開口部は、大半は壁にあるが、分析番号 FH-22, 37, 48 のように屋根にある住居もある。
- ・アイヌ民族の大人の身長を基準<sup>9)</sup>として、寸法を考察すると、壁高はアイヌ民族の大人の身長ほど、屋根高は壁の高さより大きい。
- ・付属屋の大きさは、小屋根をもつ大きさと小庇程度の大きさに分かれる。類型③の付属屋は、小庇程度の大きさである。

## 3. 切妻屋根のアイヌ民族の住居 (表5, 表6)

### 1) 切妻屋根について

既往研究において、切妻屋根のアイヌ民族の住居についての記述は、小林孝二の研究のみであり、絵画資料の中に切妻屋根を示唆する平叉首構造の小屋組を描いた資

料を確認できる。

切妻屋根の分析は行われておらず、現在において、写真資料はアイヌ民族の切妻屋根の住居の特徴を最も記している資料である。

### 2) 主屋と付属屋の関係

**類型⑧ 付属屋を伴わず、主屋は矩形で平入**

(表4 分析番号 FH-75, 85)

**類型⑨ 付属屋を伴わず、主屋は矩形で妻入**

(表4 分析番号 FH-76)

### 3) その他

- ・軒出はある。
- ・屋根葺材は茅である。
- ・壁は茅が大半であるが、分析番号 FH-75 のように桎壁も存在する。
- ・アイヌ民族の大人の身長を基準として、寸法を考察すると、明治初年撮影の分析番号 FH-04, 明治28年撮影の分析番号 FH-21 の壁高はアイヌ民族の大人の身長より低く、屋根高は壁の高さより3倍近くある。一方、昭和15年撮影の分析番号 FH-75, 76, 85, 昭和28年撮影の分析番号 FH-88 の壁高と屋根高は、共にアイヌ民族の大人の身長程である。
- ・分析番号 FH-75, 76, 85 に関して、寄棟屋根の住居の側に建っていること、開口部を持つ分析対象がないことから、物置として利用していた可能性が高い。付属屋を伴う分析対象がないことから、住居ではなく、物置等の用途が窺える。

## 4. 変形屋根のアイヌ民族の住居 (表5, 表6)

### 1) 変形屋根について

変形屋根のアイヌ民族の住居は、既往研究において考察が窺える。棚橋諒の研究では、アイヌ民族の住居は、軸部を持たない原始的住居から軸部を持ち屋根を持ち上げる住居に変化したと推測する<sup>10)</sup>。変形屋根を持つ住居は、この変化と関係のある住居であることが窺える。小林孝二の研究では、寄棟屋根の住居と変形屋根の住居は、構造が異なる住居であると推測している<sup>11)</sup>。

### 2) 主屋と付属屋の関係

**類型⑩ 矩形の主屋の妻側に付属屋を伴い、付属屋を妻側から入る妻入**

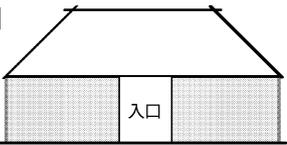
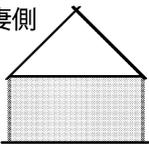
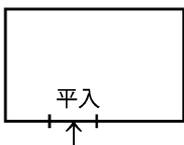
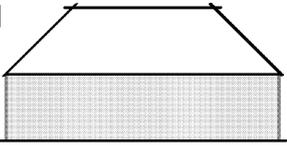
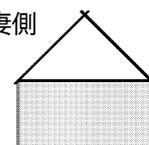
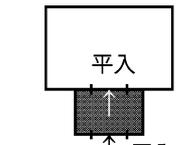
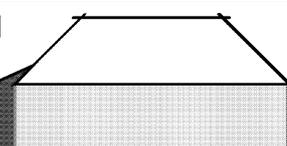
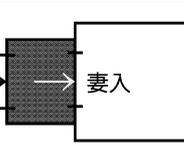
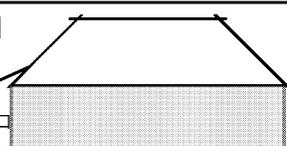
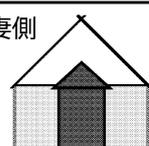
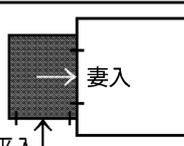
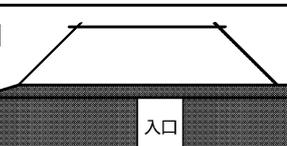
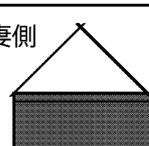
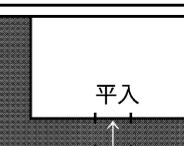
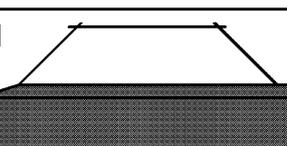
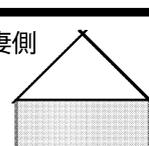
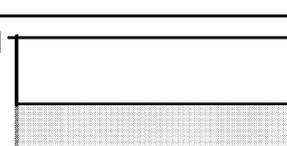
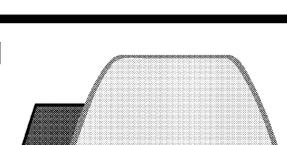
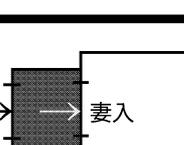
(表4 分析番号 FH-19)

付属屋の屋根形状について、分析番号 FH-19 は半筒形である。

### 3) その他

- ・軒出が無く、壁と屋根の境目が特定できない。
- ・屋根葺材・壁葺材は茅であり、外から細長い木材で固定する葺き方である。

表5 外観の特徴によるアイヌ民族の住居の類型化

類型	外観の形状	主屋の屋根形状	主屋と付属屋の関係	写真
類型①	平側  妻側 	寄棟屋根		写真1 写真2
類型②	平側  妻側 	寄棟屋根		写真3 写真4
類型③	平側  妻側 	寄棟屋根		写真5 写真6
類型④	平側  妻側 	寄棟屋根		写真7
類型⑤	平側  妻側 	寄棟屋根		写真8 写真9 写真10
類型⑥	平側  妻側 	寄棟屋根		写真11
類型⑦	平側  妻側 	寄棟屋根		写真12
類型⑧	平側  妻側 	切妻屋根		写真13 写真14
類型⑨	平側  妻側 	切妻屋根		写真15
類型⑩	平側  妻側 	変形屋根		写真16

※ 類型③、④の付属屋の屋根形状は、片流れ屋根、切妻屋根の2種類、類型⑤の付属屋の屋根形状は、片流れ屋根、切妻屋根、寄棟屋根の3種類が存在する。写真5の原本は、Arthur P. Brigham氏所蔵、北海道立文書館は複製品を所蔵(資料番号 P-2, 16)、北海道大学付属図書館北方資料室は複製品の複写を所蔵(資料番号 P-26, 写真帖番号 A-06)。

表6 寄棟屋根、切妻屋根、変形屋根の外観の特徴

	寄棟屋根	切妻屋根	変形屋根
主屋と付属屋の関係	表5の類型①から類型⑦	表5の類型⑧と類型⑨	表5の類型⑩
付属屋を伴う住居の 付属屋の屋根形状	寄棟屋根 切妻屋根 片流れ屋根	付属屋を伴わない	半円形
軒出の有無	有	有	無
屋根の葺材	茅葺 笹葺(旭川・近文において)	茅葺	茅葺/外から細長い木材で固定
壁の葺材	茅から次第に桎へ	茅葺	茅葺
開口部の位置	壁 屋根	不明	屋根の上部
屋根高と壁高*	屋根高>壁高 壁高はアイヌ民族の大人の身長ほど	屋根高≒壁高の3倍(1868年-1895年) 屋根高≒壁高(1940年-1953年)	軒出がなく、屋根と壁の境目が不明。

\*写真上で、屋根高と壁高の割合を計測した

- ・付属屋の屋根形状は半筒形である。
- ・アイヌ民族の大人の身長を基準として、寸法を考察すると、壁高は特定できないがアイヌ民族の大人の身長より低く、屋根高はアイヌ民族の大人の身長より高い。付属屋の高さは、アイヌ民族の大人の身長ぐらいである。
- ・開口部は屋根の上部にある。

## 5. 年代的特徴

本研究の研究期間は、1860年代から1950年代であるが、それ以前18世紀中期から19世紀後半までのアイヌ民族の住居の特徴を小林孝二の絵画資料の研究<sup>(12)</sup>からまとめると、住居は大きく2種類の類型に分かれる。一つは寄棟屋根で屋根高が高く、軒出があり、壁は内傾または垂直で窓があり、付属屋を持ち、葺材は茅・笹・樹皮である。もう一つは、変形屋根であり、軒出がなく、壁は強く内傾し、壁に窓はなく、屋根面に開口があり、付属屋は半円筒形であり、葺材は茅・笹・樹皮である。

18世紀中期から19世紀後半のアイヌ民族の住居と1860年代から1950年代のアイヌ民族の住居と比較し異なるのは、18世紀中期から19世紀後半のアイヌ民族の住居の壁は茅であるが、1860年代から1950年代では徐々に桎に変化する。壁が茅から桎に変化したことにより、住居入口の前室として機能した付属屋は伴わなくなり、戸・ガラス窓が設けられるようになる。この変化がアイヌ民族の住居の外観を大きくかえる事になったと考える。

その他、18世紀中期から19世紀後半には、変形屋根のアイヌ民族の住居が絵画に多く描かれているが、1860年代から1950年代では棟数が減り、撮影年代の最も新しい写真で1884年である。既往研究においても変形屋根のアイヌ民族の住居の実測記録がみられない。このことから、

変形屋根のアイヌ民族の住居は、寄棟屋根のアイヌ民族の住居より早くに消滅した可能性がある。

## 6. 地域的特徴

1860年代から1950年代に、旭川、近文において、屋根葺材、壁葺材に笹を用いるという特徴はあるが、地域による大きな違いは、写真資料から窺えない。

## V. 結論

本研究は、これまで系統的な研究が行われていない1860年代から1950年代におけるアイヌ民族の住居を対象とし、写真資料を用いて、主屋の屋根形状から、寄棟屋根、切妻屋根、変形屋根の3種類に住居を類型化し、さらに、主屋と付属屋の関係から、10種類に分類し、軒出の有無、屋根の葺材、壁の葺材、開口部の位置から外観の形状の特徴と年代的特徴を明らかにした。

### 注

- (1) 代表的な研究は以下の通りである。鷹部屋福平：青屋閑話。1939, アイヌの住居。彰国社, 1943, 北方圏の家。彰国社, 1943
- (2) 考古学による発掘調査の成果資料である。建築学の立場から、建物跡の柱穴跡を分析し、アイヌ民族の建築を研究する。代表的な発掘報告書は以下の通りである。千歳市教育委員会：末広遺跡における考古学的調査(上)。1981, 末広遺跡における考古学的調査(下)。1982, 末広遺跡における考古学的調査(続)。1982, 末広遺跡における考古学的調査Ⅳ。1996, 梅川4遺跡における考古学的調査。2002, ユカンボシC2遺跡・オサツ2遺跡における考古学的調査。2002, トメト川3遺跡における考古学的調査。2004, 恵庭市教育委員会：カリンバ2遺跡。1987, ユカンボシE7遺跡。1998, 柏木川13遺跡(Ⅲ)。2005, 平取町

遺跡調査会：北海道平取町イルエカシ遺跡，1989

- (3) 近代以前に描かれたアイヌ民族の建築の絵画や踏査記録に掲載する挿図である。代表的な絵画資料は以下の通りである。村上島之允：蝦夷島奇観，1799，谷元旦：蝦夷紀行，1799，松浦武四郎：校訂蝦夷日誌一遍巻之六誌，1845
- (4) 小林孝二：アイヌの建築文化再考—近世絵画と発掘跡からみたチセの原像—，北海道：北海道出版企画センター，2010
- (5) 荻原真子・古原敏弘・長谷川一弘・児玉マリ・藪中剛司・鈴木邦輝・内田祐一・福士廣志・出利葉浩司・北原次郎太・ヴァレンチーナ V. ゴルパチョーヴァ・イリーナ A. カラバートヴァ・タチアーナ Yu. セム：ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料目録，千葉：草風館，2007
- (6) アイヌ民族の建築に関する研究の第一人者である鷹部屋

福平が，1940年に北海道に現存するアイヌ民族の建築を調査したときに撮った写真を調査地域ごとにまとめたもの。5・6集は二風谷村，7・8集は白老村の調査記録である。

- (7) 屋根が変形し，稜線が不明瞭な屋根。
- (8) アイヌ語でセムと言ひ，住居の入口機能。
- (9) 写真に写る大人のアイヌ民族の身長を高さの尺度に用いる。
- (10) 棚橋諒：アイヌの住居，民家第II輯 12，1938
- (11) 小林孝二・大垣直明：近代以前の絵画資料に描かれたアイヌ民族の建築に関する研究，日本建築学会計画系論文集 608：127-134，2006
- (12) 注4参照



写真1 表5の分類1，茅壁

資料番号 P-11「アイヌ住居及び熊檻」  
写真帖番号 A-01「アイヌ関係アルバム」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真3 表5の分類2，茅壁

資料番号 P-84「白老3」  
写真帖番号 A-33「毛民青屋集7，8」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真2 表5の分類1，桎壁

資料番号 P-74「二風谷2」  
写真帖番号 A-32「毛民青屋集5，6」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵

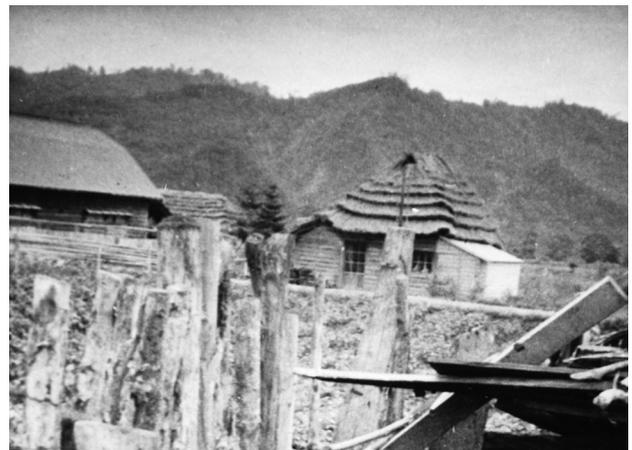


写真4 表5の分類2，桎壁

資料番号 P-76「二風谷4」  
写真帖番号 A-32「毛民青屋集5，6」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真6 表5の分類3, 柵壁  
資料番号 P-86「白老5」  
写真帖番号 A-33「毛民青屋集7, 8」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真9 表5の分類5, 付属屋片流れ  
資料番号 P-33「アイヌ家屋と倉庫」  
写真帖番号 A-12「東宮殿下行啓記念(下)」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真7 表5の分類4  
資料番号 P-43「釧路市春採アイヌ住居」  
写真帖番号 A-21「昭和初年単体絵葉書」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真10 表5の分類5, 付属屋寄棟  
資料番号 P-89「白老8」  
写真帖番号 A-33「毛民青屋集7, 8」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵

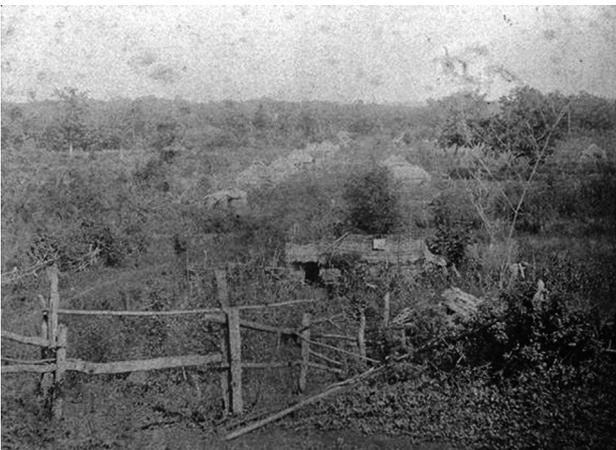


写真8 表5の分類5, 付属屋切妻  
資料番号 P-29「網走郡美幌村アイヌ村之景」  
写真帖番号 A-09「明治30年代単体写真」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真11 表5の分類6  
資料番号 P-78「二風谷6」  
写真帖番号 A-32「毛民青屋集5, 6」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真12 表5の分類7  
 資料番号 P-79「二風谷7」  
 写真帖番号 A-32「毛民青屋集5, 6」  
 北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真15 表5の分類9  
 資料番号 P-81「二風谷9」  
 写真帖番号 A-32「毛民青屋集5, 6」  
 北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真13 表5の分類8, 茅壁  
 資料番号 P-90「白老9」  
 写真帖番号 A-33「毛民青屋集7, 8」  
 北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真16 表5の分類10  
 資料番号 P-25「根室国標津村のアイヌ」  
 写真帖番号 A-05「明治17年単体写真」  
 北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真14 表5の分類8, 桎壁  
 資料番号 P-80「二風谷8」※左から3番目の住居  
 写真帖番号 A-32「毛民青屋集5, 6」  
 北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真17 笹葺き住居  
 資料番号 P-41「近文旧土人部落」  
 写真帖番号 A-19「宗谷線全通記念写真帖」  
 北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真 18 明治初年切妻屋根住居  
資料番号 P-04 「アイヌ家屋傍のヌササン」  
資料群番号 A-01 「アイヌ関係写真アルバム」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真 21 住居内部写真  
資料番号 P-09 「チセの屋根裏」  
資料群番号 A-01 「アイヌ関係写真アルバム」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵

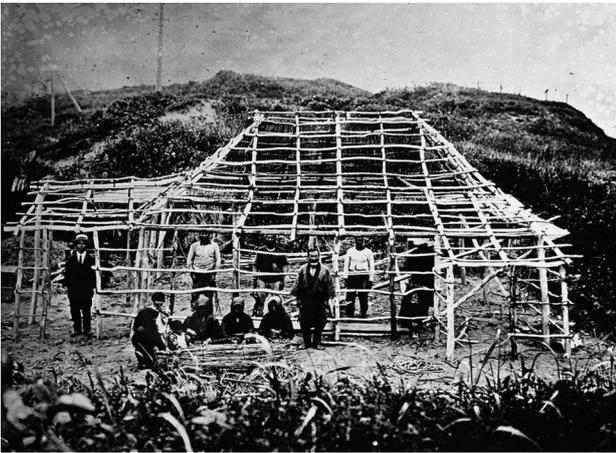


写真 19 住居骨組写真  
資料番号 P-08 「チセの枠組み」  
写真帖番号 A-01 「アイヌ関係写真アルバム」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵



写真 22 風景写真  
資料番号 P-39 「日高平取土人部落」  
資料群番号 A-17 「北海道大観」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵

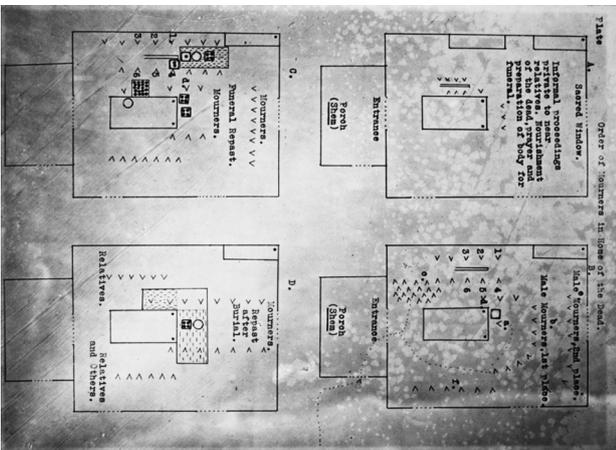


写真 20 平面図写真  
資料番号 P-10 「Order of Mourners in Home of The Dead」写真帖番号 A-01 「アイヌ関係写真アルバム」  
北海道大学付属図書館北方資料室所蔵